

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100044		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大垣木戸(1Fなごみ)		
所在地	岐阜県大垣市木戸町306-1		
自己評価作成日	令和元年 7月18日	評価結果市町村受理日	令和元年 9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣にある別の愛の家のホームと協力し合い、エリアでの運動会や合唱コンクールなどホーム内だけでなく外に出て何かを行うという事に力を入れてきました。イベントにはご家族様にも参加いただき、どのようなサービスの提供を行なっているか知って頂く事も意識しました。またホーム内では畑で作物を作ったり、花を育てたり、魚を飼ったりして外に出る理由づけが出来る事を増やす事を心掛けました。見学希望の方へも畑をアピールしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2192100044-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、豊富な経験の中から培ったポリシーとして『職員は利用者にかかれること』を掲げている。管理者はこのポリシーを着任当初から職員に説き、仕事は作るのではなく、利用者の思いに沿い『今は独りの時間を過ごしたい』『出かけたがたい』『満腹感を味わいたい』など利用者の思いを反映し、潤いのあるホームでの暮らしを展開するよう、職員の負担に配慮しつつ職員の意識を統一し実践している。利用者の重度化から介護計画はADLの維持、改善のテーマを取り上げる傾向にある。ADL主体のテーマにあっても、例えば下肢筋力低下の利用者は毎朝、自立歩行を行い、歌好きの複数の利用者は屋外で歌唱し、敷地内の花や野菜の世話、お茶会を介護計画に組み込み、楽しく機能訓練ができるよう工夫している。それらの取り組みから、『利用者にかかれる職員』が育っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和元年 8月 8日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様各々のご希望に合わせて、外出支援をケアプランに組み込み、実施している。ご利用者様の状態にもよるが、出来る限り多くの地域資源を活用したいと思っている。	管理者は法人の理念を踏まえ、支援にあたりまずは『職員は利用者に好かれること』と唱えている。日々の暮らしの中に利用者の望むこと、必要なことを探り実践し、理念を利用者の穏やかな暮らしに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	木戸町自治会に加入している。運営推進会議には自治会長さん、若しくは自治会より1名参加して下さっている。散歩や買い物の際には積極的に挨拶をする事で、ご利用者様と地域の方との交流をはかっている。	自治会に加入し、地域から行事参加の呼びかけがある。運営推進会議に地域の参加を得て、消防団の避難協力など災害対策、地域交流促進の相談をしている。ホーム内の畑の野菜を近隣に配る交流がある。	現在休止中の幼稚園との交流の再開や地域行事への参加、ホームの開放など、交流の機会を更に設けるよう考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ホームでの取り組みをお伝えしているが、地域貢献になっているかは分からない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの現状を報告し、ご家族様、包括さん、民生委員さん、自治会の方等との意見交換を行っている。	隔月に運営推進会議を開催している。家族、地域、行政に加え知見者である老人ホーム、訪問介護事業者の参加を得てホーム報告、看取り、災害対策、安全確保と多岐にわたり意見を交換し、実践に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連絡を取っているのではないが、GH協議会等から頂く研修案内を事務所に掲示する事で、希望者は各々そういった場所に参加出来る様にはしている。	市に定期的に書類の提出や手続き、報告を行っている。市の担当者からホームの空き状況の照会や、入居希望者の相談を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人スタッフは入社時に必ず研修を受ける。また、全スタッフが定期的に身体拘束に関する研修を受けている。身体拘束、虐待に関してホーム長、CM、ULで定期的に話し合いの場を設け、議事録を作成、全スタッフに開示、周知している。	定期的にホーム内研修を実施し、2ヶ月おきに不適切事項のチェックリストを用い、職員の振り返りを行っている。また、拘束防止委員会を隔月開催し、職員の不適切なケアの防止・啓蒙に努めている。	日常会話の中で、利用者に向けて『ちょっと待って』や『先にこっちやって』等、つい出てしまう言葉が、職員の都合で利用者の行動を制限していないか、振り返る必要を感じる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	少しでも問題だと感じる言動、行動が見られた場合には、その場でスタッフ同士声を掛けあうよう、ホーム長よりご指導頂いている。また、ホーム長が現場に出る事があり、その際に確認されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的にホーム内で研修を行っている。全スタッフが研修を受け、レポートを作成している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長が都度行っている。ホーム見学の時点で疑問等があればその都度伺い、十分に説明を行っているように思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム長が都度行っている。ケアプランに関してはご家族様のご意向も伺い、出来る限りプランに反映するようにしている。面会時にもご家族様からのご意見やご要望を伺っている。	入居前にホームの暮らしを利用者、家族に十分説明し、双方理解のうえで入居しており入居後の家族との関係は良好である。ホーム行事への家族の参加時や家族の訪問時に意見を確認し反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見等は都度話を聞き、対応していると思う。	月1回全体と各ユニットの会議を設け、職員の意見を表す機会としている。管理者は会議のほか日常的に職員に声を掛け、意見の収集と実践の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長は個々にねぎらいの言葉を掛けて下さる。ご利用者様、スタッフの状態に合わせて、常に業務の見直し、改善をする事で過ごしやすい、働きやすい環境とするように、と話されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	エリア内での研修があり、経験年数ややる気等を考慮し、順に参加できるようにしている。資格修得等に関しては本人のやる気を重視し、都度対応して下さっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	エリア内での合同の研修や行事があり、それなりに交流の場はあると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランの更新時には特に重点的にご本人様の状態を把握するべく、アセスメント等を行っている。日々の関わりの中で知り得た情報に関しては記録等を利用し、スタッフ間での情報共有をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に主にホーム長が伺っている。入居後は面会時やケアプランの更新時等にお話を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に応じて、他のサービス利用も含めた対応をしていると思う。ご利用者様やご家族様の状態に応じて、こちらからご提案する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てスタッフが行うのではなく、ご利用者様個々の能力に合わせ、出来る事は行って頂けるようお願い、お誘いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時を中心に、ご家族様のお話を伺い、出来る限り良い関係を築けるよう努力していると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	喫茶店や本屋さん等に希望に応じてお連れしている。またホームに入られるまえ家でしていた事を入居後も継続して行って頂けるよう、ケアプランに組み込み実施している事もある。	利用者が、以前暮らした地域の馴染みのスーパーや自宅にドライブに出かけている。毎日、お経を読む利用者、複数の読書や塗り絵を楽しむ利用者と、趣味・習慣の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々相性がある為、難しい部分もある。外出の際などには、ご利用者様間の相性を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、ご連絡を取り、お話を伺うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの更新時を中心に、ご本人様やご家族様にお話を伺うようにしている。日々の関わりの中で知り得た情報に関しては記録に残し、他スタッフとの情報の共有をしている。	職員は、利用者から掴んだ思いや意向のヒントである発語や仕草を、正確に記録するよう努めている。計画作成担当者は、利用者の思いや意向の集約を担当し、管理者と相談のうえ実践の反映に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様との日々の会話の中から情報を得ている。また、面会時などご家族様にも伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残す事で、ご利用者様の状態の把握を全スタッフが出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のユニット会議時にスタッフ間で意見交換を行っている。稀に、ご利用者様がケアカンファレンスに参加、希望を話して下さることもある。ご家族様には面会時にお話を伺っている。	毎月、職員によるモニタリングを行い、介護計画の検証、計画作成に活かしている。介護計画見直し時には、利用者と家族の意見を確認し、実現できる内容に絞り3ヶ月を目処に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ各々の力量に差はあるが、概ね出来ている、努力していると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応したいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望や状態に応じて、出来る限りの外出支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、おおくま先生が往診に来て下さる。ご家族様からの希望等があれば、先生とお話をする事や往診時の立ち会いも可能。	週1回巡回する看護師職員は、ホーム協力医の月2回の往診に合流(連携)し、利用者の健康管理に努めている。利用者の外来受診は家族の同行を原則とし、難しい場合はホーム(職員)の対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師訪問時には、ご利用者様の状態に関しての報告を行っている。事故等の際には、報告する事で都度対応もしてもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師、主治医との連携がなされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に一通りホーム長よりお話をしている。ご利用者様の状態に変化が見られるような時には早めにそういったお話、ご希望等を伺うようにしている。	入居時に、看取りの指針を家族に説明している。医療行為の伴うホームでの看取りは想定していない。ホームでの看取りを家族が希望する場合は、家族と医療関係者、職員とで話し合い、可能な場合は受け入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に研修を行っている。運営推進会議で自治会の方より地域の防災の情報を教えて頂く事もある。	年2回昼夜想定での避難、通報訓練を行っている。災害時に備え、飲食の備蓄、災害対策グッズを備えている。運営推進会議を通じ、災害時の地域住民へのホーム開放、備蓄品、ADL装置の提供を伝えている。	地域とホームとの災害時の協力関係を築くよう望みたい。夜間は職員2名体制となり、有事の利用者の避難には限界がある。地域の協力が不可欠と考える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関して定期的に研修を行っている。言葉かけに関しては難しい部分もあるが、各々意識はしていると思う。	利用者の呼称は、苗字を基本に利用者の希望のある場合は下の名前で優しく呼んでいる。自立度の高い利用者は、入浴時の脱衣の際やトイレはドアの外で見守り、プライバシーを確保するよう配慮している。	評価訪問時、利用者と職員の会話に拘束(スピーチロック)に触れる表現が散見された。気さくと馴れ合いの違いを意識し、利用者本位の失礼のない接遇を望みたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度希望を伺うようにしている。お話が難しい方に関しては、質問を選択式にするなどし、想いを知る努力はしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、希望に添えるよう努力はしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	概ね出来ていると思う。大きな行事の時などにはお化粧を楽しんで頂く事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶を入れたり、お箸を並べる等、ご利用者間の能力やお気持ちに応じて行って頂いている。	法人の管理栄養士の作成するメニューを基に、調理専門職員の温かい料理を提供している。正月料理、節分の恵方巻、七夕はそうめん、ちらし寿司など、季節を感じる行事食を準備して利用者を楽しませている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が苦手な方には、水分ゼリー等を提供する事で、十分な水分を摂って頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様個々の能力に応じて、出来ない部分のみスタッフがさせて頂いている。希望された方のみであるが、定期的な訪問歯科のケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄の状態に合わせて、トイレ誘導、お声掛けをしている。また、ご利用者様の状態の変化に応じて、使用するパッド類の見直しを行っている。	排泄記録を参考に、利用者ごとに適切な声掛け・誘導を行い、失敗のない排泄に努めている。現在、職員による適切な声掛けを行い、紙オムツの利用者をパッドとりハビリパンツに改善するよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉牛乳や寒天ゼリーを提供するなど、努力はしている。また、不要な下剤の使用はしないように定期的にご利用者様の排便状況に関して看護師に報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り行っている。	週2回の入浴を基本に、利用者の希望に沿った長湯、湯温、入浴の時間帯等、柔軟に対応している。温泉気分が味わえるよう入浴剤を利用し、歩行の難しい利用者は清拭や足浴、シャワー浴にて安全を確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様のその時々状況に応じた対応をしていると思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	委員会を設け、お薬の変更等を毎月のホーム会議で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様お一人お一人に応じて役割を持って頂いたり、塗り絵等の趣味を楽しんで頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別支援の委員会を設け、出来る限り外出の希望に添えるよう努力している。	ホーム周辺の散歩、敷地内の花や野菜の世話、屋外でのティータイムを気分転換の機会としている。利用者の自宅や馴染みの店へのドライブ、花見、買い物の外出等を支援している。外出の内容により、家族にも参加を呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理はホームで行っており、日常のご自分でお金を管理されている方はいませんが、お買い物にお連れした際にはご自分でお金を払って頂けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、都度お電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境美化委員会を設ける事で、環境作りに努めている。また、お花、畑委員会を設け、花畑で季節の花を楽しんで頂けるようにしている。	共有エリアでは、機能訓練を兼ねて利用者が楽しんでモップを掛けている。居間は大きな窓から十分な採光を取り入れ、明るい空間である。居間を中心に対面キッチンと事務所エリアを設け、職員の見守り可能な構造である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話しやすいようにお席を設けたり、努力はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から家具を持ってきて頂いているので、使い慣れた物や好みの物となっているのではないかと思う。居室間の装飾に関しては、出来る限りご利用者様と相談して行っている。	利用者希望の家具や椅子を置き、趣味の書籍、塗り絵、書道の作品、テレビ、置時計、ぬいぐるみ、花、家族の写真等を配置している。壁に仏画を貼る利用者は、毎日お経を唱える個性あるマイルームである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりにテープを貼る等の工夫はしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100044		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大垣木戸(2Fのどか)		
所在地	岐阜県大垣市木戸町306-1		
自己評価作成日	令和元年 7月18日	評価結果市町村受理日	令和元年 9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣にある別の愛の家のホームと協力し合い、エリアでの運動会や合唱コンクールなどホーム内だけでなく外に出て何かを行うという事に力を入れてきました。イベントにはご家族様にも参加いただき、どのようなサービスの提供を行なっているか知って頂く事も意識しました。またホーム内では畑で作物を作ったり、花を育てたり、魚を飼ったりして外に出る理由づけが出来る事を増やす事を心掛けました。見学希望の方へも畑をアピールしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JiyosvoCd=2192100044-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和元年 8月 8日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流を明記してはいないが、個々のニーズに合わせて外出支援の目標をケアプランに記載し、実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献に至っているかは分からない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催し、ご家族様にも参加頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、連絡相談しあえているのではないかと。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に事業所内でスタッフ向けに研修を行い、スタッフがレポートを作成し提出している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	少しでも問題と考えられる行動が見られた際は、スタッフ同士声を掛けあっている。上長が現場を確認し、声を掛ける事も十分に出来ていると感じる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	上長が都度行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	上長が都度行っている。 ケアプラン関連でも意見を伺い、希望があれば出来る限り反映させられるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所内会議と、それ以外に職員から相談を受けた際は話しを聞き、都度対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議の場や、相談等があった場面でねぎらいの言葉をかけている。業務内容の見直しについても、常に職員の働きやすさについて発言している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同社他事業所の職員との合同研修の機会があり、上長が経験年数や特性に応じて職員を選び、研修に行く事がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同社他事業所との合同研修や、合同行事にて職員同士の交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン更新時だけでなく、現場の職員がよく観察しており、変化があれば都度伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に上長から話を窺っている。 ケアプランの意向伺いの際とサインの際にもお話を伺っている。現場職員でも、面会時によく会話して下さっていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望があったり、状況に合わせて調査を行い、適切と思われる他サービスもご紹介、ご提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立度が高い方に関しては、家事を一緒に行う姿をよく見る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	役職者、ケアマネージャーのみならず、現場職員もご家族様とコミュニケーションをとっているの努力していると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の記憶が失われている事が多いが、ご希望に合わせて、寺院へお参りに行ったり喫茶店へ外出したりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性があり、難しい。 家事を出来る人が担ったり、相性が良い方は一緒に外出にお連れしたりは出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了に立ち会った事がないので分からない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様への聞き取り、ご家族様への聞き取り、現場職員による観察と意見聞き取りにより常にアセスメントをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話から質問して情報収集したり、ご家族様への聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	しずさと診療所と連携し、現状把握は出来ていると思う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	努力して行っていると思う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員の力量によって差はあるが、出来ていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所や会社の規定内で、努力していると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時期に合わせて近所に季節の花を見に行ったり、買い物、外食、カラオケ等に出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診を受けている。状態によって、必要があれば紹介状を書いてもらったり、他科診療のおすすめはしているとおもう。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適宜、相談出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師、往診医と上長がしっかり連携をしていると感じる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	チャンスがあれば聞き取りしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現場職員が気持ちの余裕が無い時に、十分でない場合があるが、最低限出来ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度希望を聞いていると思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る範囲で行っていると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ていると思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理スタッフが工夫し、現場職員と協力して行えていると思う。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	努力していると思う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの誘導や声掛けは十分に行っている。 必ずしもおむつやパットの使用量を減らす事を本人様、ご家族様が求められるとは限らない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	提供する飲み物を工夫したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限りで行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	努力していると思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	委員会を設けて管理行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努力して行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出できるよう、計画してお誘いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しい方が殆どの為、職員で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ていると思う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	努力していると思う。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	努力していると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望の物があればお持込頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	努力していると思う。		